

第4回

小松市未来型図書館基本構想策定委員会

# 未来型図書館のビジョン・コンセプト案について

---

2022年12月12日（月）



これまでのつながるミーティングの結果と基本構想策定委員会での議論を踏まえて、未来型図書館ができることで小松市というまちがどのようなになっていくと良いか、みなさんが根底で共通して願い、期待していることとして、以下の4つのポイントを統括として整理しました。

この4つのポイントを紡ぐものとして、ビジョン・コンセプト案を検討しています。

魅力や良さを活かし、  
まちを元気な状態にしていく

自らの手で  
社会のあり方や関係性を  
よりよくつくっていく

人や情報がつながることで  
未来にわたって  
生き生きとした循環を生み出す

すべての人にひらかれ、  
その営みを支えていく

未来型図書館ができることで小松市というまちがどのようなようになっていくと良いか、みなさんが根底で共通して願い、期待していることの統括として整理した前ページの4つのポイントについて、補足説明を付与すると以下ようになります。

### 魅力や良さを活かし、 まちを元気な状態にしていこう

#### 地域創生・地域活性化

市民にとって住みよい環境を確保し、地域に存在する資源を活かしながら、地域の経済や社会、文化などの動きを活発化し、地域を維持発展させていく。

### 自らの手で 社会のあり方や関係性を よりよくつくっていく

#### まちづくりの拠点

#### 市民協働・市民参画

市民と市民、市民と行政が相互の主体の理解と尊重、そして信頼のうえに立ち対等・平等な関係を育みながら、それぞれが自分ごととして持続的にまちづくりを行っていく。

### 人や情報がつながることで 未来にわたって 生き生きとした循環を生み出す

#### 情報発信

#### 地域・施設間連携

#### 交流創出

地域や施設に蓄積された情報を発信し、他地域や他施設と連携すること、また、人と人が出会い交流することによる相乗効果を生み出していく。

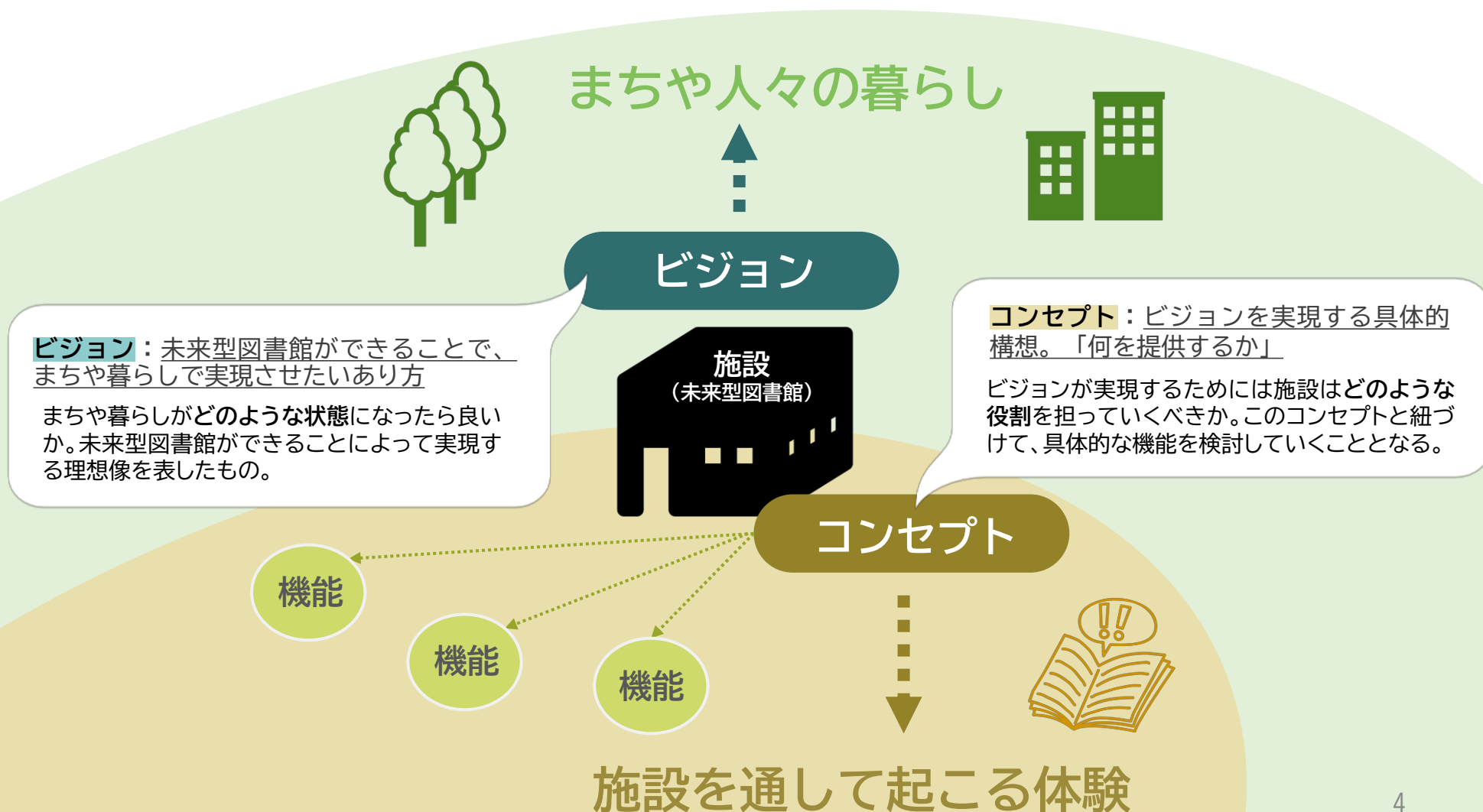
### すべての人にひらかれ、 その営みを支えていく

#### 多文化共生 ダイバーシティ・インクルージョン

年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、多様性を認め合い、互いを活かし対等な関係で支え合いながら、地域社会をともに作り、ともに暮らしていく。

## ビジョンとコンセプトの位置付けについて

ビジョン・コンセプトの位置づけを以下のように整理します。未来型図書館は、小松市のまちやそこでの暮らしに影響していくものという広い観点でとらえ、「未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方」（ビジョン）と、「ビジョンを実現するための具体的構想」（コンセプト）に整理し、次ページ以降のビジョン案・コンセプト案の検討を行いました。



ビジョン：将来あるべき姿を描いたもの。大切にする価値観。

→未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方

# こまつを編む。こまつを巡らす。

—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—



## 編む

まちの中にある多様な資源を結び付け、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく。

## 巡らす

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が、地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく。

### 情報

多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していく。

### つながり

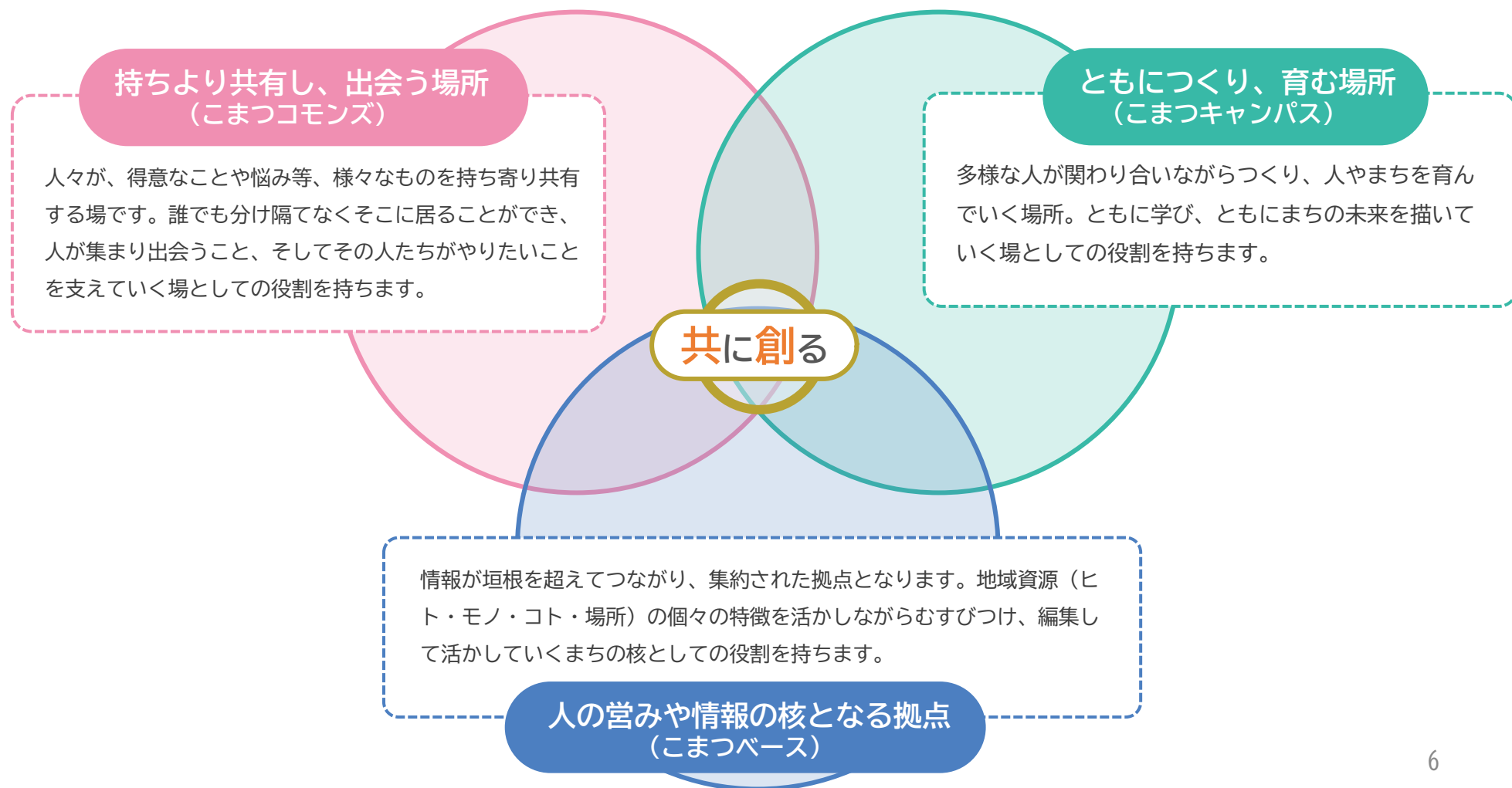
多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら関係性のつながりをつくり、動かしていく。

### とき

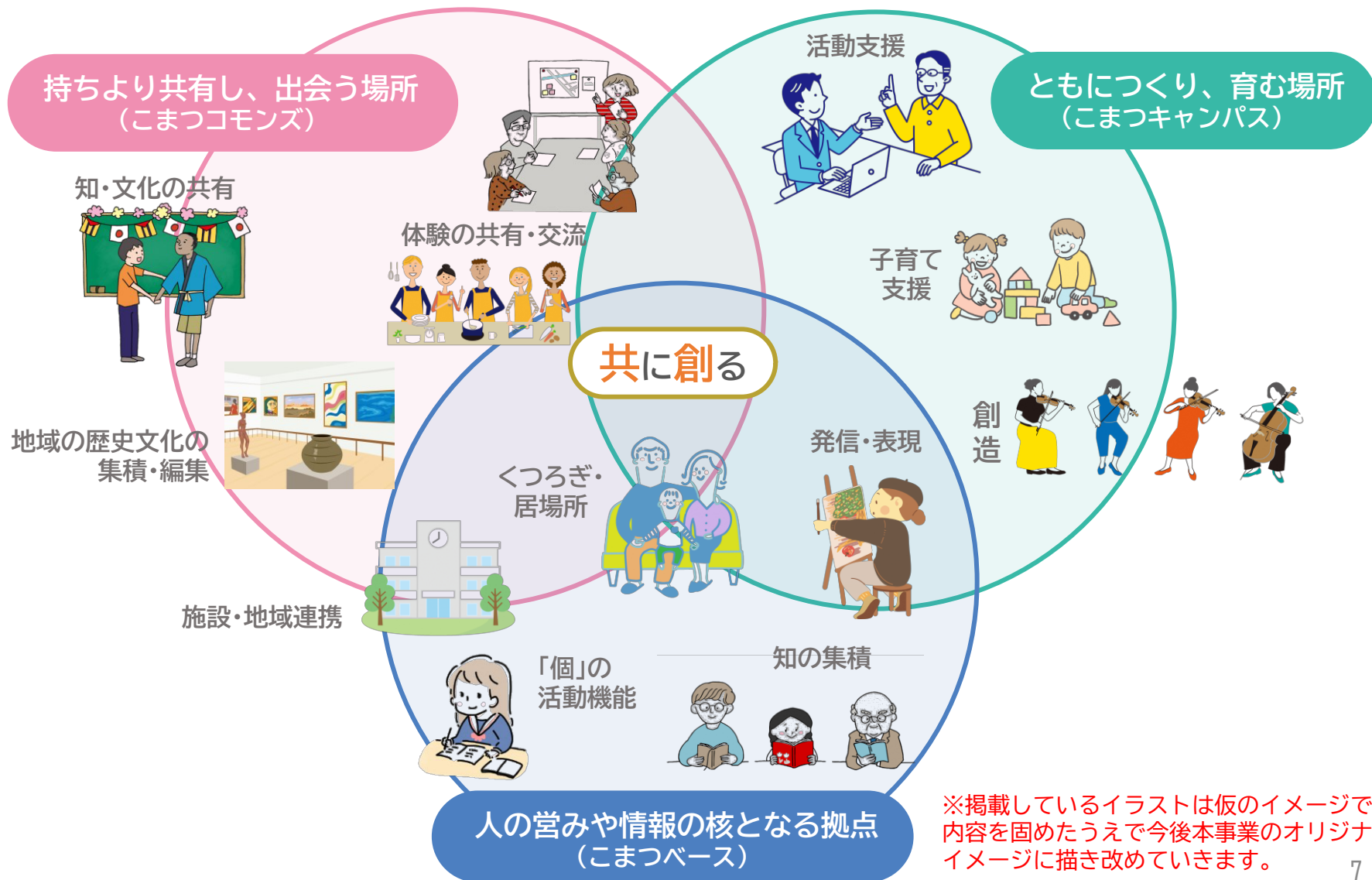
まちの歴史のなかにある資源（ヒト・モノ・コト）を掘り起こし、未来へつないでいく。

## コンセプト： ビジョンを実現する具体的構想。「何を提供するか」→施設が担っていくこと

ビジョンを実現させるために施設が担っていくべき要素を以下の3点に整理しました。3つのコンセプトは、それぞれ独立しているのではなく、相互に作用していることから、融合している関係を表しています。互いに重なり合い、補い合いながら各要素が持つ役割を発揮することでビジョンの実現を目指します。また、「ともにつくる」施設であることから「共創」を3つの要素が重なりあった中心に据えます。



コンセプト案の各要素について、考えられる役割（機能）は以下の通りです。市内の同様もしくは類似機能を持つ既存の施設との集約もしくは連携、その場合の立地的な関係性も含め、多角的に検討を行う必要があります。



※掲載しているイラストは仮のイメージです。  
内容を固めたうえで今後本事業のオリジナルな  
イメージに描き改めていきます。

## 対話 「未来型図書館」を通して、まちのなかでどんな体験ストーリーが生まれるか

### ①妄想ストーリーラフづくり（個人）

- ・ 未来型図書館が小松市というまちにできることで、施設を通してまちのなかでどんな体験が生まれそうか、妄想ストーリーを考えてみる。

### ②ペアレビュー（ペア）

- ・ お互いの考えた妄想ストーリーを紹介
- ・ お互いのストーリー、その背景にある経験についてインタビューをしながら掘り下げる

### ③妄想ストーリーのブラッシュアップ（個人）

- ・ ペアでレビューした気づきをもとに、改めて妄想ストーリーをブラッシュアップする。

### ④共有（グループ）

- ・ グループに分かれて、ペア以外の参加者のグループメンバーとも共有する。



施設の役割(機能)検討にあたって、より掘り下げた検討が必要と考えられる観点

1. 学校連携・支援(学校との学びとのつながり)
2. 施設連携、情報の接続(美術館・博物館・文化施設等とのつながる仕組み)
3. 市民活動の支援(出会い、発展させていくための仕組み)
4. デジタルの情報、アーカイブ(ヒト・コト・モノをどう記録するか)
5. まちづくり(施設はリアルなまちとどうつながっていくか)
6. エリア全体への展開(“知る”体験を広げる仕掛け)

## 1. 学校連携・支援(学校との学びとのつながり)

### 妄想ストーリー(グループ2)

#### 人物設定

55歳男性。会社員で35年間働いてきた。60歳の定年後の生き方に不安を抱えている。

・企業の経営者B  
・学校の教師C

#### タイトル

つながり合い、ビジネスプランを実践する

#### ストーリー

Aさんは、新聞やテレビを見ていて、最近学校に行けなくなっている子どもが多くなっていると知った。そうしたときに、子どもたちの学びやつながりの場として、「フリースクール」があることを聞いた。Aさんは、それがどういうものなのか気になり、ネットで調べ詳しい本が出版されていることを知り、図書館へ通い、フリースクールの仕組みを調べ、いつか自分がこうした場をつくれないうように考えるようになった。

何度か図書館に通っていたある日、図書館にビジネス支援のコーナーがあることを知り、カウンターに訪れると、今度「創業セミナー」があることを教えてもらった。セミナーに参加し、ビジネスプランを考え、紹介し合ううちに、ますます起業の意欲がわいた。一緒に参加していた人が、学校の教師Cであり、自分のプランを話すと、Cさんもぜひ一緒にやりたいという展開になった。

二人は一緒にビジネスプランを練っていくうちに独自性を考え、企業経営者から学べるスクールをと考え、フリースクールの目玉に経営者Cさん(知り合い)に協力を依頼しプランが完成。定年後フリースクールを運営した。

#### <施設に必要な機能(役割)>

色んな事を知っていて、何でも相談に乗ってくれる人。自分とともに考えてくれる人がいるところであってほしい。

## 2. 施設連携、情報の接続(美術館・博物館・文化施設)

妄想ストーリー(グループ8)

人物設定 社会人

タイトル まちの情報がつながり新たな体験が生まれる

### ストーリー

図書館のテーマコーナーを見て周ることが楽しい。※図書館にはあちこちにいろいろなテーマの特集コーナーがある。新たな興味をひいたりする。

テーマに関連して、博物館・美術館の展示(その逆も)や公民館での講座の情報もあり、展示を見たり、講座に参加することでより深く学べる。また人との出会いもある。学んだ知識を人に伝えたくなり、趣味を同じくする人たちと一緒にミニ講座や展覧会を開催するようになる。

<施設に必要な機能(役割)>

素敵な書棚

### 3. 市民活動の支援(出会い、発展させていくための仕組み)

#### 妄想ストーリー(グループ3)

#### 人物設定

両親の勤務都合で東京から転校してきた中学2年生の男子

・小松市で地域づくりに頑張るNPOスタッフ  
・学びを応援する図書館スタッフ

#### タイトル

遠く離れた親友に小松を紹介するための行動

#### ストーリー

まだ友人と呼べる友達がいない状態。先日転校してきたが、小松のことがよくわからないので困っている。東京にいたころの友人達からメールが届き、「小松ってどんなところ？田舎？楽しくやれそう？」と聞かれて困った。

自分自身の興味もあってどんな町か調べることにした。学校の先生の紹介で図書館を尋ねると、「なんでもインフォメーション」コーナーがあった。そのスタッフに事情を話すと、歴史・観光・スポーツ・食べ物・産業などいろいろなジャンルから紹介できると聞いた。とりあえず県民性も知りたいので、祭りについて聞いてみることにしたところ、とあるNPOスタッフを紹介してもらった。メールで待ち合わせたあと、セミナールームでお旅祭りについて話を聞いた。子ども歌舞伎があって、知仁勇の精神で頑張っていること、その一方で後継者となる子ども役者のなり手が少ないなどの悩みについても聞いた。いろいろ悩んだ結果、子ども役者のボランティアを育てる活動に取り組もうと思った。そして自分も参加して、そのときは東京の友人を招待したいと思った。

#### <施設に必要な機能(役割)>

マッチングセンター(仲介相談所)、ワンストップで相談できる場所

## 4. デジタルの情報、アーカイブ(ヒト・コト・モノをどう記録するか)①

妄想ストーリー(グループ5)

### 人物設定

小3の長女(9)

ナイジェリアの友人、AI

### タイトル

距離の制限がなく、知識欲を満たしきる

### ストーリー

GIGA端末に今週のリコメンドが来た。

これまでの嗜好に基づいたリコメンドや、類似の属性、都心部の同世代や、NYの同世代が興味を持っているリコメンドも。

今日は図書館には行けないので、端末でダウンロードを実施、気に入った本には「いいね」や一言感想を添えて返却する。  
情報源が地域だけに限定されないことで、広い視野を持てるようになってきた。

小学校6年生になったら、最も興味のあるテーマは人口減少。豊かで持続性のある社会は、どうすれば訪れるのか、昨日もナイジェリアの友人と意見交換をしたばかりだ。

本体は、物理的なコミュニケーションを促進する場所である。市民が出資して、市民が運営、ニーズに触れることができる。

### <施設に必要な機能(役割)>

文学、映像、音、あらゆる体験の電子化

## 4. デジタルの情報、アーカイブ(ヒト・コト・モノをどう記録するか)②

### 妄想ストーリー(グループ2)

#### 人物設定

30～40代男性自営業、地元での活動と関わり、  
住民主体のまちづくりを町の人とともにしている。  
鉄が好き

・各種地域団体関係者  
・仕事仲間  
・中心市街地の方々

#### タイトル

市民主体のまちづくり拠点

#### ストーリー

地域活動や町会など、市民主体の活動をアーカイブする集まりに参加し2年目、現地点でのアーカイブは完成しつつあるが、更新していくためにどうするか3年目以降のことを話し合っている。また、活動している者同士がつながり成長していく場を構築し、図書館を拠点に情報集積とコミュニティの場の流れが生まれつつある。

市民主体のまちづくりをやってみたい町の方々が増えつつあり、勉強し、プラン依頼、実行へつながる。

ワークショップや発表を気軽に行える場、道具の販売、レンタル→ワークショップの方法などを共有する仕組み

#### <施設に必要な機能(役割)>

ポートフォリオアーカイブ

## 5. まちづくり(施設はリアルなまちとどうつながっていくか)

妄想ストーリー(グループ5)

### 人物設定

学生Aさん:就活中

中小企業で働くBさん

### タイトル

出会いの場をつくる

### ストーリー

図書館には就活本や企業(市内の)研究のための本・パンフレットコーナーが設置されている。

↓

Aさんは、就活のためにそのコーナーを訪れる。

↓

パンフレットを提供しに来たBさんとAさんが出会う。

↓

AさんはBさんと会話することで、Bさんの会社について深く学ぶ、知る。Bさんは自分の会社の魅力を知ってもらえる。

↓

この出会いが就活で役にたったことから、就活イベントを立ち上げる。気軽に来れる場所。

⇒小松で働く魅力発見。直接リアルな話を聞ける。

### <施設に必要な機能(役割)>

- 情報の数
- 人と人との交流の場
- 情報を求める人、与える人材

## 6. エリア全体への展開(“知る”体験を広げる仕掛け)

### 妄想ストーリー(グループ3)

#### 人物設定

小松市へ通勤している社会人

- ・小松市に通学している大学生
- ・小松市で長年生活している高齢者

#### タイトル

未来型図書館の過去を知る

#### ストーリー

2027年小松市に「こまつ22世紀図書館よもっさ」(読もうよ)が開館する。小松市へ通勤する「私」は仕事で、また仕事の合間に「よもっさ」を訪れ、近くに「みよっさ」「うらら」という小松方言を冠した文化施設があることを知り、たまたま図書館に来ていた地元の高齢者から、小松の方言や文化施設の立地場所の由緒や立地の経緯について話を聞く。これらの文化施設は22世紀まで持続可能な建築物であるとともに、絶えず未来型図書館とはどうあるべきかが利用者によって検討され、更新されている。空とこども絵本館が旧警察署の重厚堅牢なつくりをしつつ、現在、未来の利用者の需要に応じて運営も柔軟に方向転換を図りながら、盛んに活用されている様子に感心し、「よもっさ」もそうなるよう、自分のできることで参加していきたいと思う。通学している学生からは、外の視点でどういう魅力があるかを聞き、地元の高齢者からが小松市史などに漏れた細かな情報を聞き取っていき図書館のHPに集積したい。

#### <施設に必要な機能(役割)>

- ・ 町家を利用した貸本棚の情報を図書館で整理する。
- ・ 町家の秋焦点を利用して、商売を始める若者を支援し、彼らに貸し、隣の店舗の貸本棚の管理をしてもらう。